

このコーナーでは、ボランティアをしている人を応援し、ボランティアの「はじめの一歩」のきっかけになるような記事、またボランティアセンター開設に関する情報を掲載していきます。

子ども達に本物の生の音楽を！

音楽のある人生を 応援します 岩崎 利可子さん

コンサートにはなかなか連れて行けないような小さな子どもも、気兼ねなくこの宇美町で、これぞクラシックという本物の音楽が聴けたら…。岩崎さんのそんな願いの中、彼女の友人でもある九響の山下さんの協力によって、『親子で聴くコンサート』は、6回も開催されました。

し〜ず・うみでは毎週火曜日になると、すがすがしい歌声がホールで響いています。これは岩崎さんが指導されている50名の女声コーラスのサークルです。皆さん声も若いけど、表情が生き生きしているのがとても印象的。岩崎さんが自分の専門知識や技術を惜しむことなく、注いでいる様子が伝わってきます。

「音楽の友」での評論や、アクロスクラシックセミナーでお馴染みの、音楽評論家・野中囿亨(のなか くにあき)さんをお招きして、し〜ず・うみで公開講座が行われているのも、岩崎さんが“クラシックの種まき”を地道に続けてこられた大きな成果ではないでしょうか。



自分にできることをする…これが岩崎さんのボランティア感。

昨年10月に行われた『うみこい祭り』で披露されたうみまち小唄♪。60年程前に作られ、口伝えであったことから、今では唄える人も少なくなっています。このままでは消えてしまうという危機感で、岩崎さんが地元のお年寄りから教えてもらい、楽譜に起こして復活させたものです。宇美町にご当地ソングがあり、お嫁に来た岩崎さんが掘り起こして復活させ、伝承していきたいと考えておられます。これはきっと彼女を誰かが呼んだにちがいありません。

では、そのうみまち小唄♪をひと節。

♪障子岳からなんでもね〜
障子岳から曙そめて 宇美が浮き立つ
ヤンレヤンレソノ 夜が明ける
ほ〜んにそ〜たいよかところ

岩崎さんいわく、「人は、人とのつながりによって、自分だけの力では不可能なことが可能になる。いろんな人に出会えることが自分へのご褒美」

ポランコ星がら



編集後記：岩崎さんが音楽を通して関わる人は、0歳～100歳と幅広い。“音楽のある人生を応援する”を実践されている岩崎さん。彼女はこの町には欠かせない存在だということを、改めて感じました。